

DMAT 検証会報告書

1 DMAT 受入決定の経過 (DMAT 隊員木村麻酔科科長から)

岩手医大 DMAT から、木村科長に胆沢病院の様子はどうかという連絡があり、大丈夫と回答をしていた。その後、バス転落情報があり、医大 DMAT の判断で当院に参集。

「時間経過」

11:10 岩手医大高次救急センターからドクターカー派遣

12:05 岩手医大DMATが院内に到着

12:20 秋富医師の申し出で、院内に岩手県統括 DMAT 対策本部設立 (DMAT 本部から病院へ正式の依頼があった方がよいと思われる)

2 DMAT 受入にあたっての施設設備としての問題点

(1) 本部の設置場所

病院と DMAT 本部設置場所が離れてしまったこと

病院本部、救急室 1F : DMAT 本部 2F 大会議室

(2) 具体的な問題点

- ・ 院内で衛星携帯電話が使用できない。
- ・ 消防や地域の医療機関間の連絡手段が確保できなかった。
- ・ 院内でのホットライン (病院本部、DMAT 本部、救急室間) の連絡手段が確保できなかった。
- ・ 病院本部にマスコミからの電話が殺到し、対応に苦慮。

参考: DMAT 本部設置に伴い、病院で対応した事

2F 大会議室に本部決定

50 席のイスと机、パソコン、ホワイトボード
インターネット接続 (研究室からケーブル連結)

PC プロジェクター、TV

電話連絡表

待機チーム院内宿泊室確保

近隣地図

JR 時刻表

3 病院本部と DMAT 現地本部との連携、課題

(1) 連携

両本部が離れており連絡を取るのが物理的に困難。

院内本部責任者と治療責任者 (北村)、統括 DMAT (秋富医師) のより詳細な打ち合わせが必要。

統括 DMAT の秋富医師は、14 時過ぎから 17 時 30 分の記者会見前まで、主に救急室に詰めていた。

(統括 DMAT には秘書が必要と思われる)

(統括 DMAT は実際の治療にはタッチすべきでないと感じた)

(記者会見の設定が統括 DMAT 主導で行われて慌てた)

(2) 具体的な課題

- ・ 参集 DMAT の医師数等必要情報の確認ができなかった。
院内の初期治療サポート可能な DMAT 人数の確認が必要。
DMAT の医師数、医師の専門確認（特に外傷、救急の経験）が必要。
- ・ DMAT の専門性と院内の参集医師の専門性、数に合わせた配慮が必要。
（具体的には、当日院内には外科医師、整形外科、麻酔科医師が不足）
- ・ 治療の責任が病院にあることについて事前確認と周知徹底が不十分で治療現場が混乱した。
- ・ 病院治療担当者との必要機材等の事前打合せができなかった。
（DMAT から動脈ライン、カテーテルシースの要望があり対応に時間を要した。）

4 DMAT と院内現場職員との連携はうまくいったか

役割分担や、責任体制の確認の不備があった。

DMAT が主体で治療を行うと認識していた職員が少なくなかった

（現場責任者の自分は、治療の責任は病院にあり DMAT はあくまで支援と認識）

治療グループによっては、DMAT が院内の若い職員を上手くリーダーシップとして治療した。転院に際し、整形外科医師の代わりに患者説明を引き受けてくれた。

患者が集中して野戦病院状態になった時、治療のリーダーシップを DMAT がとって、大声で指示する声が響いた。院内のスタッフはそれに圧倒される状態となった。

かなりの興奮状態であり、不適切な言動があった。

5 総合的に DMAT の支援は有用であったか

非常に有用

情報の収集

ヘリポートから院内への移送とその際の患者管理

他院への移送の手続き、同乗による患者管理

有用

病院内初期治療支援

6 胆沢病院職員の DMAT に対する印象

県内の医療機関からの参加隊員が多く、仲間が助けに駆けつけてくれ心強い印象

東京、仙台からの帰省中の DMAT が駆けつけてくれ感激

実際の救急室内ではかなり悪い印象を持った職員が少なくなかった

（聞き取り調査表参照）

7 病院支援に入る DMAT に望むこと

協調的、時に指導的な態度で接する事

高圧的な態度をとらない事

蔑んだような言動を慎む事

ドラマの主役のような印象を与えない事

病院のルールをある程度尊重する事

CV は 3 回刺してダメなら術者交替

PPE の装着

資料

岩手北部地震

DMAT 事務局の活動

岩手北部地震災害に対する対応

2008.7.24

国立病院機構災害医療センターDMAT 事務局

教育研修室長 楠 孝司

今回の地震災害への対応は、初動として発災直後に救命救急センター一部長他の数名が第一会議室に参集し、災害時優先電話の接続等の本部立ち上げを迅速に行い、情報収集に努め、DIS 情報では、新潟県中越地震などと同じく、死者 100 人未満、重傷者数 100 人未満と報じていたため、派遣の準備を開始することとなった。

深夜にもかかわらず、迅速な職員の招集が図られ、院内 DMAT 隊員を中心とした医療機関への情報収集や交通情報の収集などが行われた。

青森県、岩手県両県の太平洋沿岸地域の病院への情報収集では、ほとんどの被害がなく、傷病者も骨折等の中等症が若干いるものの軽傷者が来院している状況で、震源地近くの洋野町においても急性期の医療支援を要する現場が見あたらない状況にあった。

医療チームの派遣にあたっては、既に東北地方を中心とする複数の DMAT が現地に向かっていたが、発災直後の現地での医療ニーズが見いだせないこと及び遠距離であることから検討を行い、夜が明けてからの調査活動及び現地へ向かっている DMAT の報告を待って 5:00 に決心することとし、一旦派遣メンバーを待機とした。しかしながら、夜が明けてからの情報でも派遣の必要性が見いだせないため、院内待機とし、活動中の DMAT の後方支援に努めることとした。

現地へ向かう DMAT の参集拠点とする被災地拠点を見いだすことができずにいたが、TV で 13 名の傷病者を搬送したことを報じていた八戸市立市民病院を暫定的な参集拠点とし、東北南部から参集する DMAT の参集拠点を岩手県災害対策本部に統括 DMAT 研修受講者である医師が県職員としていたため、アドバイスを受け、岩手医科大学病院をもう一つの暫定参集拠点とした。

今般の災害では、18 の DMAT が迅速に被災地へ入り、現地での情報収集及び待機を行ったが、幸いにも急性期の医療需要は無く、活動を終了している。

当院の活動としては、優先電話による情報収集、広域災害・救急医療情報システム (EMIS) による情報収集及び情報発信は大いに機能し、記録においては、時系列に情報内容が記録された。しかしながら、EMIS を扱える人材が少ないこと及び医療機関等への情報収集を行う者が限られていたことがあげられ、今後の院内の情報体制の充実が望まれる。

今回の岩手北部地震では、震度 6 強にもかかわらず、幸いにも被害がけが人だけですみ、急性期の医療ニーズはありませんでしたが、大規模災害発生時の対応が図れるかは大いに疑問があり、今後への備えに研修を含めて体制を作っていく必要があると感じます。

深夜にもかかわらず、参集され活動されました職員に感謝いたします。

活動報告

平成 20 年 7 月 24 日（木）

- 0:26 岩手県沿岸部を震源とする地震発生
震度 6 強 M6.8 立川地域 震度 3
- 0:37 院内災害対策本部立ち上げ
- 0:37 DIS (Disaster information system) : 死者 100 人未満、重傷者数 100 人未満、
倒壊家屋数 500 棟以下、避難者数 3,000 人以下
- 0:42 厚生労働省より EMIS 一斉通報による自主待機要請
- 0:43 EMIS 更新入力 被害無し
- 情報収集開始
- 0:55 八戸市立市民病院
- 0:55 岩手県立久慈病院
- 0:56 岩手県立大船度病院 被害無し
- 0:58 岩手県立宮古病院 EV 停止、その他被害無し。患者受入要請、派遣要請無し
被災者の状況を保健所が調査している。
- 1:02 岩手県立釜石病院 EV 停止、その他被害無し。
- 1:04 厚生労働省医政局指導課救急対策専門官に情報提供
- 1:10 国立病院機構八戸病院 被害無し、要請なし。
- 1:10 福島県立医大病院ドクターヘリ 4:30 よりフライト可能
- 1:10 (テレビ情報) 八戸市内に火災発生
- 1:21 岩手県立二戸病院 被害無し
- 1:25 洋野町役場災害対策本部 救急要請無し、人的被害情報無し
- 1:26 東北大学病院 DMAT 出動連絡
- 1:29 EMIS 掲示板に災害現場状況を発信 情報収集を行った医療機関に被害無し。搬送
される患者情報無し。
- 1:30 派遣のための資機材、医薬品準備開始
- 1:33 厚生労働省田邊専門官より、DIS 詳細情報入手 死者 26 人、重傷者 20 人
- 1:35 久慈消防本部 人的被害情報無し、土砂崩れ無し、詳細不明
国立病院機構本部医療課より機構内に本部を立ち上げたとの連絡が入る。
- 1:38 院長、本部到着
- 1:40 武蔵野赤十字病院からの情報
八戸赤十字病院、盛岡赤十字病院、石巻赤十字病院、被害無し。
武蔵野赤十字病院日赤救護班待機済み
- 1:40 日本医科大学 DMAT 出動連絡
- 1:41 洋野町国保種市病院 患者無し、病院被害無し。
- 1:43 (テレビ情報) 八戸市立市民病院の傷病者 13 人搬送

- 1:45 岩手医大病院秋富医師より情報 岩手県沿岸部の病院被害無し。
- 1:45 (テレビ情報) 六ヶ所村核燃料再処理工場被害無し。
岩手県が陸上自衛隊に派遣要請 警察派遣待機中
- 1:46 山形県立中央病院 DMAT 出動連絡
- 1:49 岩手県立大船度病院 DMAT 出動連絡
- 1:50 八戸市立市民病院今救命センター長情報 13名来院 軽症が多く、自院で対応可能
暫定参集拠点とすることを申し入れ、了解を得る。
- 1:50 厚生労働省田邊専門官へ現時点での情報提供と八戸市立市民病院を暫定参集拠点と
することの了承を得る
- 2:00 暫定参集拠点を八戸市立市民病院とすることを決定。
統括 DMAT を八戸市民病院今先生とする。
- 2:05 当院 DMAT 派遣準備完了
- 2:05 EMIS 掲示板に東北地方の高速道路状況を発信
- 2:08 EMIS 掲示板に暫定参集拠点を八戸市立市民病院としたことを発信
EMIS「お知らせ」により青森県内の参集拠点が八戸市民病院であることを発信
- 2:15 東京都福祉保健局救急災害医療課より東京 DMAT 待機要請
- 2:19 新潟市民病院 DMAT 出動連絡
- 2:16 岩手県立久慈病院 救急隊4名搬送。自院で対応可能。DMAT への要請無し。
- 2:32 弘前大学 DMAT 出動連絡
- 2:33 福島医大 DMAT 出動連絡 夜明け後、現地でドクヘリと合流予定
- 2:34 岩手県立二戸病院 被害無し。患者無し変わらず、DMAT への要請無し。
- 2:48 厚生連村上総合病院 DMAT 出動連絡
- 2:55 災害医療センター本部 本部要員及び DMAT 1 チームを残し本部縮小。
- 2:56 厚生労働省より EMIS 一斉通報による 東北・関東甲信越地域を除き待機解除
- 3:00 東京 DMAT 待機者を東京都へ FAX 送信
- 3:01 岩手県庁災害対策本部 真瀬医師情報 岩手県内医療需要特になし。連携体制をと
る。
岩手県側の参集拠点を真瀬医師と相談。盛岡市内であれば移動がしやすいとの意見。
- 3:01 前橋赤十字病院 DMAT 出動連絡
- 3:05 岩手県立中央病院の状況 被害なし、患者なし。DMAT は自宅待機。
- 3:10 白鬚橋病院 DMAT 出動連絡
- 3:10 (テレビ情報) 八戸赤十字病院 傷病者4名受入。内重傷者1名
- 3:15 仙台市立病院 DMAT 出動連絡
- 3:32 現時点での現地医療ニーズが無いため、夜明け後の状況により派遣を決定すること
する。派遣決定の判断を5:00とし、一旦、DMAT 支援担当を除いて解散とする。
DMAT 1 隊は、5:00 に出動準備をして集合

- 3:43 (テレビ情報) 政府調査団が被災地へ向け出発
- 3:43 国立病院機構仙台医療センターDMAT 出動連絡
- 3:50 EMIS 掲示板に高速道路、青森、岩手の一般道の通行状況を発信
- 4:13 東北大学病院山内医師に岩手医科大学病院到着後、統括 DMAT を依頼。
- 4:13 秋田大学病院 盛岡入りの連絡
- 4:13 秋富医師より岩手医大病院を参集拠点とすることを岩手県災害対策本部真瀬医師と申し合わせたとの連絡を受ける。
- 4:15 岩手県災害対策本部真瀬医師に確認
岩手医大病院を岩手県内の暫定参集拠点とすることを決定
- 4:23 EMIS 掲示板に岩手県内の参集拠点を岩手医科大学としたことを発信
- 4:27 厚生労働省より EMIS 一斉通報 東北6県以外の DMAT は待機解除
- 4:47 厚生労働省より EMIS 一斉通報 活動中の DMAT を除き待機解除
- 4:53 EMIS 「お知らせ」により岩手県内の参集拠点が岩手医科大学であることを発信
EMIS 「お知らせ」により、DMAT 本部機能について、八戸市民病院 DMAT 本部、岩手医科大学 DMAT 本部、岩手県庁 DMAT 本部、災害医療センター災害対策本部を周知
- 4:55 国立病院機構本部へ現時点までの時系列情報をメールにて送信
- 5:00 東京 DMAT 指定5施設を除き待機解除(当院は指定施設 待機継続)
- 5:17 東北大学病院山内医師に岩手医科大学病院到着
- 5:25 現地での緊急医療のニーズが無いと判断し派遣を見送ることとした。
DMAT 1 隊は院内待機、他、現地で活動している DMAT の後方支援を継続して行うこととする。
- 7:00 岩手県立久慈病院情報 県立磐井病院 県立中央病院が久慈病院へ向かっている、地震による患者 11 名(中等症 1 名、軽症 10 名)
- 7:00 八戸市立市民病院情報 地震による患者 29 名(中等症 7 名、軽症 22 名)
- 8:40 8:00 現在の DMAT の活動状況を厚生労働省へ報告
- 9:19 東京都福祉保健局医療政策部救急医療課より東京 DMAT の待機要請
東京消防庁緊急消防援助隊として東京 DMAT が出場となる場合に東京 DMAT 1 隊(医師 1、看護師 2、調整員 1)を要請。待機時間は 9:00～19:00
- 11:00 10:00 現在の DMAT の活動状況を厚生労働省へ報告
- 12:15 厚労省が青森県・岩手県の医療担当部局に DMAT 体制解除の了解を得る。
- 12:20 八戸市民病院統括 DMAT へ県庁の了解を得たことを報告
- 12:20 岩手医大統括 DMAT へ県庁に撤収の了解を得たことを報告
県庁からの報告で、現在へりにて上空から調査中。5機の内、残り2機の報告を待って撤収予定。
- 12:30 岩手県立久慈病院 待機解除

- 12:30 岩手県立医大病院 待機解除
- 12:30 院内災害対策本部縮小 以降管理課で対応とする
- 12:30 関東信越ブロック事務所医療課に電話で状況報告
- 13:00 八戸市立市民病院 待機解除
- 13:06 岩手県庁災害対策本部解散
- 14:00 13:00 現在の DMAT の活動状況を厚生労働省へ報告
13:00 にて DMAT 活動終了
- 14:45 EMIS「お知らせ」にて DMAT 活動終了を発信
- 15:16 厚生労働省より EMIS 一斉通報 DMAT 活動の終了
- 15:40 東京 DMAT 待機解除
- 15:40 災害医療センター災害対策本部活動全て終了

東北地方会 DMAT メール情報

- 1:50 岩手県立久慈病院 皆川です。今のところ当院来院患者は頭部切創など軽症 10 数名来院です。現在被害状況把握中です。
- 2:46 山形県立救命救急センター森野発信
現在、参集拠点八戸市民病院へ移動中の DMAT は大船渡、東北大、山形県中、日本医大の 4 隊のようです。
岩手県庁真瀬先生情報では今のところ大きな情報無しとのこと。
緊急援助隊は岩手県アイスアリーナに 3 時参集。
その後 1 時間ごとに情報報告するそうです。
020-0866
岩手県盛岡市本宮字松幅 100-1
電話番号 019-658-1212
へりは日の出以降の活動となります。
東北自動車道は築館までは通行可能のようです。
- 2:57 東北大学病院 小林です。
八戸市民病院の情報 (2:58) をききました。
(八戸市民病院、千葉先生からの情報です。)
今のところ、軽症者のみであり、対応可能なぐらいの患者数しか来ていないとのこと。これからどうなるかはわかりませんが・・・。
- 3:12 東北大学病院小林先生発信
高速道路情報
築館 IC からの通行止めで、東北大学病院は止められています。
- 3:25 東北大学病院小林先生発信
東北大学病院 DMAT から 3:15 築館インターが通過可能 (公式には通行止め) という情報がありました。
事前に宮城県警高速隊 (022-226-0582) に交渉する必要があるとのこと。
築館 IC に着く前に連絡すると良いようです。伝える内容は、災害派遣 (医療班) であること、車両番号などです。
岩手県内は通行可能、八戸までも何も言われなかったとのこと。

3:35 八戸広域消防情報 (3時前)

マンション7階火災 1件

塩酸タンク漏洩 1件

閉じこめ救助 2件

救急出場 17件

*被害状況は、死者情報なし。中程度と思われます。

八戸市民病院収容傷病者

22件(うち外傷17件中一三沢救急1件、久慈救急1件)

八戸赤十字病院 2件

3:49 東亜大学中田さん発信

岩手県 大雨警報 洪水警報

秋田県 大雨警報 が出ています・・

土砂崩れの危険もあるとの情報があります。注意してください。

岩手県内高速道路は3:25 現在全線開通・・

4:13 八戸市民病院今明秀です。午前4時10分です。

当地域は、近隣病院を含めて、傷病者約30名。黄色タグ5名、他緑タグ。赤はゼロです。

土砂崩れ生き埋めなし。倒壊家屋の確認なし。火災鎮火。救急車全車出動は一瞬でした。今は平時の救急体制に近いです。

病院機能は、完全平時状態。エレベーター復帰。

院内職員参集も解除になっています。現状では、DMATの出番はなさそうです。夜明けになれば、新しい災害情報があるかも知れません。

八戸市民病院に入りましたら、救命センター入り口の左横に、DMAT本部入り口のポスターを張っていますので、そちらからお入りください。

8:23 八戸市民病院今明秀です。

晴れです。北国にしては、蒸し暑いです。弘前大学DMAT(浅利隊長)が4名で早朝に、八戸入りしました。現在情報収集と待機中です。

午前8時で当院の傷病者29名。骨折などで入院の中等症7名です。近隣病院の担当傷病者は、数名です。

直近の久慈病院救命センターへの搬入患者も20名以下です。

夜が明けても、新たな災害の発見はありません。収束しつつあります。

お疲れ様です。

EMIS 掲示板情報

6:48 宮古消防より情報です 県立大船渡病院

被害の状況

負傷者

山田町 3人(2)

岩泉町 1人

田野畑村 1人(1)

合計 5人(3) ()内は救急搬送

7:34 岩手医科大学の情報 東北大学病院

7時30分現在、参集チームは9チーム

6時の岩手県庁での会議では、

県内の救急業務は通常の救急で対応可能(重症3件)。

ヘリは全国から多数集まっているが、天候が悪く、被災地の上空を飛べていない。

今後、久慈などに行く必要があれば、ヘリで行くことが可能。

9:13 県立久慈病院の状況について 県立久慈病院

地震による病院の破損なし、病院機能は維持しています。

地震による救急患者は全部で10名、1名入院です。

2:40を最後に患者は来院しておりません。

10:48 岩手医大の状況 東北大学病院

10時30分現在の岩手医大の現状です。

15チームが参集しています。

DMATに対する医療ニーズはなく、現在ヘリが上空から被災地の視察を行っています。

昼頃までにある程度判るようです。

11:39 久慈病院 11:40の状況 県立久慈病院

11:40現在、地震による患者は来院しておりません。消防本部等も出動している部隊はないようです。

12:36 県立久慈病院の状況について 県立久慈病院

病院との協議の結果

12:30をもって中央・磐井DMATは久慈病院より撤収いたします。

13:06 岩手医大に参集したDMATの解散について 東北大学病院

岩手県内を5機のヘリと飛行機で視察したところ、特に異常を認めなかったとの報告を岩手県庁の真瀬先生からいただき、岩手県内に医療ニーズはないと判断、12:30に解散といたしました。

参集したDMATは15チームでした。

みなさま、お世話様でした。

13:32 岩手県参集ポイントの撤収について 岩手医科大学附属病院

岩手県の防災対策本部の報告により、DMAT派遣は必要なしとのことで当病院に参集していただいたDMATチームの撤収をいたしました。

厚生労働省報告 7/24 13:00現在

○八戸市立市民病院

統括 DMAT 同院 今先生

弘前大学病院 5:30 着 医師3、看護師1 4名 13:00 撤収

○岩手県立久慈病院

岩手県立中央病院 8:20 着 医師2、看護師2、調整員2 6名 12:30 撤収

岩手県立磐井病院 9:00 医師2、看護師1、調整員1 4名 12:30 撤収

○岩手医科大学病院

統括 DMAT 東北大学病院 山内先生

秋田大学医学部附属病院 4:37 着 医師1、看護師2、調整員1 4名 12:30 撤収

東北大学病院 5:20 医師2、看護師2、調整員1 5名 12:30 撤収

仙台市立病院 5:50 医師2、看護師1、調整員1 4名 12:30 撤収

岩手県立花巻病院 6:00 医師2、看護師2 4名 12:30 撤収

福島県立医科大学病院 6:20 医師1、看護師2、調整員2 5名 12:30 撤収

山形県立中央病院 6:45 医師2、看護師3 5名 12:30 撤収

仙台医療センター 7:00 医師2、看護師2、調整員1 5名 12:30 撤収

公立置賜病院 7:20 医師1、看護師3、調整員1 5名 12:30 撤収

日本医科大学附属病院 7:45 医師3、調整員1 4名 12:30 撤収

新潟市民病院 8:00 医師2、看護師2、調整員1 5名 12:30 撤収

村上総合病院 8:00 医師1、看護師2、調整員1 4名 12:30 撤収

長岡赤十字病院 9:00 医師1、看護師3、調整員2 6名 12:30 撤収

北里大学病院 9:20 医師2、看護師2 4名 12:30 撤収

新潟県立中央病院 10:00 医師1、看護師3、調整員1 5名 12:30 撤収

○宮古消防本部

岩手県立大船渡病院 4:00 着 医師1、看護師3、調整員1 5名 7:00 撤収

○岩手県庁災害対策本部

岩手県保健福祉部長寿社会課 統括 DMAT 真瀬先生 13:06 県庁本部解散

移動中

前橋赤十字病院	8:15 途中撤収	医師 2、看護師 3、主事 3	8名	【撤収】
白鬚橋病院	10:30 岩手着	医師 2、看護師 2、調整員 1	5名	調査活動
仙台赤十字病院	7:45 途中撤収	医師 2、看護師 1	3名	【撤収】
武蔵野赤十字病院	6:50 途中撤収	医師 3、看護師 4、主事 3	10名	【撤収】

資料

岩手北部地震

八戸市立市民病院 DMAT 現地本部活動

岩手県北部地震における八戸市立市民病院 DMAT の活動について

2008.10.24

八戸市立市民病院救命センター
千葉 大

■経時記録

- 00:26 地震発生
- 00:30 エレベーターすべて停止中。ほか院内に被害なし
- 00:45 職員の参集が始まり、DMAT 隊員も集まって活動を開始。
- 01:00 日本医大 DMAT から問い合わせの電話
- 01:10 続けて数人の患者が搬送、いずれも落下物による外傷
- 01:20 搬入患者が増えて、急患室内が混乱してくる
- 01:25 院外への出動準備を始める
- 01:40 山形県中の森野先生から電話、当院が参集拠点病院に決定。
- 01:43 震源地は洋野町？種市病院に応援出動しようか？
- 01:45 種市病院に電話：患者はきていない
- 01:47 久慈病院に電話：患者はきていない
- 01:50 宮古病院に電話：つながらず。軽米病院：患者はきていない
- 02:05 福岡で中規模災害？との情報（EMISのFAX）→おそらく誤報
- 02:08 予測死亡者数25（DISか）
- 02:20 東北大 DMAT に電話。仙台宮城 IC を通過して北上中、目的地は未定
- 02:50 EMIS 医療機関状況モニター確認、受け入れ困難病院はなし
- 03:02 労災病院3名、日赤4名を受け入れ中
- 03:05 DMAT 隊が続々参集中、画面で確認できたのは以下の10隊
弘前大学、大船渡、山形県中、東北大、福島医大、置賜総合、村上総合、
前橋日赤、新潟市民、日本医大
- 03:30 DMAT 隊、さらに増員。以下の隊も移動中
仙台市立、国立仙台、仙台日赤、武蔵野日赤、長岡日赤、新潟県中
- 03:58 大船渡 DMAT に電話。「宮古消防に到着、周辺にがけ崩れが数箇所発生。
航空情報が入るまで待機予定。」
- 04:15 置賜総合 DMAT に電話。当院を目指し現在は村田 JCT 周辺。
- 04:25 前橋日赤 DMAT に電話。当院を目指し現在は佐野 SA。
現状（当院医療ニーズ小、岩手でがけ崩れ？）を伝えた。
- 04:30 福島医大 DMAT と連絡がつく。現状を伝えた。
- 04:35 DMAT のHPにて、岩手医大が参集ポイントに追加されたことを確認した。
- 04:46 DMAT 本部より、活動中の隊以外は待機解除となる。
- 04:52 洋野町種市分署に問い合わせたが、人的・物的被害とも少ないとの返答。
- 05:30 弘前大学 DMAT 到着。
- 10:30 白髭橋病院と日本医大の DMAT 隊が岩手から八戸に移動中、との連絡
- 10:40 八戸市庁舎に設置された災害対策本部に電話で問い合わせ
・夜中に設置され、すでに2回の会議が行われた
・11:00に政府調査団（団長：防災担当大臣）が合流予定
・現時点での被害状況は極めて少ない。人的には37人受診/11人入院、
物的にはブロック塀の一部損壊
・次回会議は14:00予定
- 11:10 岩手県庁 DMAT 本部真瀬医師に電話

- ・岩手県内も明らかな被害は少ない
 - ・霧等で延期したヘリ偵察を実施中、12:00過ぎに報告予定
 - ・ヘリ偵察で被害がなければ解散を検討か
- 12:00 DMAT 本部より、現地統括の判断で解散OKとの連絡
- 12:45 厚生労働省→青森県庁→当院で「早く解散させるように」との通知
- 12:50 白髭橋 DMAT、日本医大 DMAT 到着。
- 13:00 病院正面玄関前で解散式

■反省

◎DMAT 参集拠点病院を経験した

- ・院内の対応は迅速で、発災 15 分で院内災対本部が設置された
- ・病院長が DMAT の活動と役割を正確に理解していた
- ・医療ニーズは低く、最初に患者が入室した 0:50 から 2 時間で超急性期が収束した
- ・参集拠点病院が 2 箇所あったことで混乱が最小限で済んだ

◎院外 DMAT との連携は良好だった

- ・通信は確保され、EMIS 情報を基にして各 DMAT 隊との連携も問題なく行えた
- ・EMIS 入力と経時記録を専属担当にしたため逐次報告も良好に実施できた

◎DMAT 以外との連携に関して

- ・出動を要する事案はなかったが、被災地域内の消防機関とは良好な情報交換ができた
- ・青森県庁との連携については課題を残した
- ・他から支護を受けながら現場へ出動することは、青森県庁の理解を得られなかった。

◎参集した DMAT に関して

- ・自主出動の間値は低く、多くの DMAT 隊が初災直後から出動準備を開始していた。
- ・周辺の DMAT からも地理的に距離があり、初動は早かったが参集には時間を要した（弘前大学 5 時間後）
- ・夜間の災害であり、航空機が使われなかったことが原因かも知れない

■DMAT としての総括

- ◆全国の DMAT 隊の初動は迅速だったが、地理的困難から参集までには時間を要した
- ◆参集拠点病院が 2 箇所だったため混乱が最小限で済んだ、現地 DMAT 本部は複数あって良い
- ◆EMIS や電話による通信が確保されれば DMAT として連携を維持できるが、通信途絶環境ではどうか
- ◆行政機関や消防との連携は平時の準備が欠かせない。行政との対話システム構築を望む

資 料

岩手北部地震

岩手医科大学附属病院 DMAT 現地本部活動

岩手・宮城内陸地震及び岩手北部地震 DMAT 活動検証

岩手北部地震活動報告

岩手医科大学附属病院現地本部活動 山内 聡（東北大学病院）

2008年7月24日（木）午前0時26分岩手県沿岸北部を震源とする マグニチュード6.8の地震が発生、最大震度は岩手県洋野町の 震度6強 であった。

今回の地震の特徴は、深夜帯に発生したこと。震度が108kmと深かったこと（そのため震度3以上の範囲が北海道から新潟県・神奈川県までと広域であった。一方余震は最大震度3の地震1回のみであった）。被害が、死者1名、負傷者207名、住家の一部損壊210棟と地震の規模の割に少なかったことがあげられる。

午前0時26分に地震発生し、0時37分にはDIS (Disaster Information System) で、死者 100人未満、重傷者 100人未満、倒壊家屋 500棟以下、避難者数3,000人以下と予測された。0時42分に厚生省よりEMIS一斉通報による自主待機要請があり、当院は午前2時に公用車とレンタカーで病院を出発した。東北自動車道は車輛通行止めになっていたが、災害派遣であることを説明し、高速道路にのることができた。築館インターチェンジで再び車輛通行止めとなっており、宮城県警高速隊との30分以上の交渉の上、通行許可がおりた。今後はDMATの一般社会での認知度の上昇を図り、省庁間を超えた連携により、DMATの隊員証の提示で災害時の検問を通過できるなどの事前の調整が必要になってくると思われる。当院DMATは参集拠点となっていた岩手医科大学に午前5時20分に到着し、DMAT本部からの指示で統括としてDMAT現地対策本部を立ち上げた。緊急消防援助隊が盛岡市のアイスアリーナに参集しているとの情報を得たため、消防の情報を収集する目的で隊員をアイスアリーナに派遣したが、参集した緊急消防援助隊は特に情報をもっていなかった。事後に判明したことであるが、アイスアリーナは進出拠点であり、情報を得るためには、緊急消防援助隊指揮支援本部（あるいは、地元の消防本部）へ行かなければならなかった。岩手医科大学では最初、高度救命救急センターのカンファレンスルームを本部として借用していたが、時間の経過と共に参集しているDMAT隊が増加し、手狭となったため、会議室へ移動となった。

県庁での災害対策本部会議に統括DMATの資格を持つ眞瀬智彦医師が出席しており、岩手医科大学に参集したDMATとの調整を行っていただいた。また、眞瀬医師と岩手医科大学の秋富慎司医師との協議で、DMAT現地対策本部設立以前に、県内のDMATを被害の中心地に近い久慈に派遣していた。午前7時10分に、第1回DMAT会議を開催した。眞瀬医師からの報告では、現在の所、大きな被害はでておらず、通常の救急医療体制でまかなえているとのことであった。また、盛岡に多数のヘリが参集しており、DMATの出動が必要な際にはヘリで搬送していただけるとのことであった。9時50分に第2回DMAT会議を開催し、被害の拡大がないこと、被害状況確認のため、岩手県内を5つの

エリアに分けてヘリ 5 機にて状況確認する予定で、その結果が判明する昼頃まで現状のまま待機とする方針を説明した。12 時 30 分に、第 3 回 DMAT 会議を開催し、ヘリによる状況確認で異常を認めず、12 時 30 分で DMAT の待機を解除し、解散とすることを伝えた。今回岩手医科大学に参集した DMAT は 15 チーム、医療班は 1 チーム、その他岩手県内で活動を行った DMAT は 4 チームであった。

今回の岩手医科大学に参集した DMAT チームは、実際の医療活動を行わなかったが、岩手宮城内陸地震の反省を活かし、眞瀬医師に県庁と DMAT との調整を行っていただいたため、スムーズな調整を行うことができた。移動に関しても、ヘリを現場派遣への移動手段として利用できることになっていた。また、活動全般を通じて、DMAT 東北方面隊のメーリングリストを用いて有効な情報共有ができたと考えられる。改善点として、先に述べたように、国土交通省、警察庁と事前の調整を行っていただければ、災害時の検問等での時間の浪費を減らすことができると思われる。統括 DMAT としては、消防からの情報収集や、チーム内での役割分担などで改善の余地があり、今後経験を積んでレベルアップを図る必要があると感じた。